

# 委託事業実施内容報告書

## 平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 (公財) 東広島市教育文化振興事業団

**1. 事業名称** 東広島市南部、北部における多文化共生社会推進を目指した日本語教育事業

### 2. 事業の目的

東広島市中心部においてはすでに当該事業団が東広島市の公的資金を用いて、外国人対象の日本語教室を開催しているが、北部、南部の中心地より遠い地域においては、外国人市民が居住しているにもかかわらず日本語教室がなく、日本語学習をたくてもできない外国人市民が存在する。それら市民に対して多文化共生社会推進の目的に沿い、地域の事業所等と連携し、地域住民との交流を図りつつ行う日本語学習の場を提供する。

また、この日本語教室は多文化共生社会推進に資するものとなるよう、ボランティア講習会を開き、参加ボランティアの意識の統一を図る。教材は、現在当事業団が作成した教材を用いているが、非漢字圏の学習者が、漢字に馴染めるよう、学習者自身が必要とする漢字を教授するための教材を作成する。またこの教材は漢字圏の学習者にとっても必要な漢字知識が与えられるように工夫するものとする。

### 3. 事業内容の概要

(1) 日本語教育の実施

東広島市内2地域(福富地区、安芸津地区)で日本語教室を開催した。

開催頻度及び時間:週1回2時間で、福富地区30回、安芸津地区は34回行った。

形態:交流型とする。各教室に参加する学習者の日本語レベルや興味に応じてグループ分けし、そこにボランティアを配置して、日本語で話す活動を行う。その際、地域の行事や生活情報なども伝えるようにした。

指導者等:市民ボランティアが支援。なお、教室運営のためのコーディネーター(指導者)を配置し、ボランティアと学習者とのマッチングや、グループで使用する教材や話題の設定、整理を行った。また、コーディネーターはボランティアが活動しやすいように教材の活用方法などを説明したり助言したりした。

(2) 人材の養成

回数及び時間数:全13回、1回3時間 合計32時間

① 多文化共生の社会を目指すとは(3時間)

② 多文化共生を目指した活動とは(3時間)

③ 活動の実際(4時間)

i 呉市 ひまわり21(2時間) ii 安芸高田市 国際交流協会(2時間)

④ 日本語について(10時間)

i 日本語はどんな言語か(2時間) ii 日本語の特徴(2時間) iii 日本語の音声(3時間)

⑤ 日本語支援の方法(15時間)

i コミュニケーションのための技術(3回9時間)

ii 学習者の生活の質を上げるための日本語教材とその利用方法(2回6時間)

(3) 学習教材の作成

1. 教科書の作成方法

① 学習者が読みたい漢字を集める。また、生活に必要な漢字を講師、ボランティアに募る。

② ①の漢字を記録し整理する。

③ ②をカリキュラム案「生活上の行為の事例」を参考にしてテキストに載せるものを選択する。読み方など、その漢字の情報をまとめるだけでなく、どのように使用されるのか例文や練習問題を作成する。

④ 必要なイラスト等を入れて漢字教材を完成させる。

2. テキストの構成

① 漢字の成り立ち、部首名、書き順など、漢字についての基礎的な知識をはじめに紹介する。

② テキストは、単元のテーマに沿った1字をその単元の漢字とする。各単元3ページから6ページ前後とし、その単元のテーマに沿った漢字語彙も提示する。その際、できる限り絵や写真など意味の推測を促すものを多用する。その字または語彙を入れた例文を示す。

③ 語彙表を作成し、英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語の訳も入れる。

### 4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 4月26日 (土) 13:30~15:30	2時間	東広島市 市民文化センター コミュニケーションコーナー	井口安成、 ダックワース・ネイサン 吉本由美、 木原賀彦、 間瀬尹久	1. 自己紹介 2. 研修の概要説明 3. 運営委員からの意見	・文化庁に提出した事業計画に沿って説明。 ○運営委員からの意見 (1)日本語教室について ・カリキュラム案を参考すること (2) 人材養成研修について ・人材養成講座の講師について ・人材養成に外国籍の人たちと話す時間を持つことを検討 (3) 漢字教材について ・出版されている漢字教材との違いについて ・「カリキュラム案」の項目に沿ってまとめる予定。 ・作成した漢字教材は今後教室で使う予定。 ○次回の運営委員会について
2	平成26年 9月26日 (土) 13:30~15:30	2時間	東広島市 市民文化センター コミュニケーションコーナー	井口安成、 ダックワース・ネイサン 吉本由美、 木原賀彦、 間瀬尹久	1. 人材養成講座について 内容・参加人数・評価 2. 日本語教室参加人数について 3. 漢字教材について ・進捗状況 4. その他意見等	1. 人材養成 ・これまでの実施実績(5月~8月まで開催した講習会について報告。) ・自分本位のボランティアへの対応。 2. 参加人数・ボランティアの様子・学習者の状況・教材について報告。 ・教材 ・評価方法について 理由は次の通り ① 学習者・ボランティアともに、毎回同じような評価。 →何ができて何ができないかはつきり評価できない。 →行為は日本語能力がなくてもできるものもある。 ② そもそも日本語能力評価をすべきかどうか疑問。教室に参加するだけでも評価できるのではないかと。

3	平成27年 3月8日 (日)9:30～ 11:30	2時間	東広島市市民 文化センター 研修室1	渡邊(井口安成の代 理) ダックワース・ネイサン 吉本由美、 木原賀彦、 間瀬尹久	振り返り 1. 人材養成講座 について 2. 日本語教室 3. 漢字教材につ いて 4. 今後の課題	本事業の振り返り 1. 成果と課題 (1)日本語教育 成果: i これまで日本語学習の機会が与えられなかった人々への学習機会の 提供となった。 ii 生活情報を与えることができた 課題: i 地域住民ボランティアが少ない。地域のリーダー、民生委員などに外国 人市民について認識を深めてもらう必要がある。 ii 日本語教室だけではなく、地域の祭りなどイベントに外国人が入ってい けるような仕掛けが必要なのではないか。 (2)人材養成 成果:「多文化共生」実現のための日本語教室の在り方、ボランティアの役割に ついてシリーズで知らせることを試みた。各回の参加者に対するアンケート調査 では、参加目的に合致した講習会であったとの評価が得られた。 課題: i すべての回に出席した参加者は一人だけであり、半数以上参加した人 も全参加者145人のうち一割にも満たなかった。できるだけ多くの参加者が少な くとも前回の2/3程度の出席を実現させるためには工夫が必要である。それには 魅力的な内容にすることが必要であり、参加してみようかと思わせるキャッチー なチラシなど広報活動も工夫しなければならない。 ii ボランティアの高齢化。20代、30代の市民に日本語支援にどうかか わってもらえるか。 (3)漢字教材 成果:講師陣が協力して175ページの漢字教材を作成することができた。実際の クラスで試行してみたところ、評判が良かった。アンケートによると漢字学習が 楽しかったという声も聞かれ、知っている漢字が増えたという感想もあった。ま た、これまで漢字の看板を見ようと思わなかったが、この頃どんな漢字が書い てあるのか見てみるのが多くなったという声も聞かれ、学習者の漢字に対する 意識の変化が見られた。 課題:初めは8名の参加者がいたが、後半、特に寒くなってからは参加者が減少 し、最後は3人だけという結果になった。漢字は読み方も書き方も複雑であるた め、授業だけでは積み上がっていかない。学習の動機づけをどうするかが大きな 課題。
---	------------------------------------	-----	--------------------------	--	--	--

## 5. 日本語教育の実施

### 5-1. 北部教室

- (1) 講座名称 にほんごわいわい福富
- (2) 目的・目標  
学習者の生活の質を上げるために  
①安全に生活するための日本語を学習する。  
②地域や職場での人間関係を円滑にするための日本語を学習する。  
③地域活動などの情報を得る。
- (3) 対象者 東広島市安芸津町および周辺地区在住の外国籍住民(技能実習生、日本人配偶者、永住者など)
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)
- (5) 使用した教材・リソース 自主制作課題プリント、文化庁カリキュラム案、せいかつのにほんご1、2など
- (6) 受講者の総数 9 人  
出身・国籍別内訳

中国	5人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	台湾1人
ブラジル	人	ペルー	1人	
ベトナム	人	フィリピン	人	*ボランティアとして参加(受講者総数9人の他に)
ネパール	人	日本	2人	中国1人

### (7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年5月 25日(日) 10:00～ 12:00	2時間	久芳地域 センター	5人	中国(4)、日 本(1)	自己紹介、災害 カード (導入として)	自己紹介シートを記 入。全員で自己紹介、 災害時安心カードを記 入。災害に関する語彙 (弘前大学)チェック、 説明、全員で自由会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)、北 野瑞枝(スタッフ)
2	平成26年6月 1日(日) 10:00～ 12:00	2時間	久芳地域 センター	5人	中国(4)、日 本(1)	生活<男女の役割 分担>	男女の役割分担(「お しゃべりの種」)の課題 をやる。それをもとに参 加者全員で自由会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)
3	平成26年6月 8日(日) 10:00～ 12:00	2時間	久芳地域 センター	3人	中国(2)、日 本(1)	生活<梅雨> 生活や健康に影響 の大きい梅雨という 季節の特徴や対処 方法を学ぶ	文法演習(受け身)、課 題プリント(梅雨用語、 オノマトペ)、自由会話	奥村玲子	北野瑞枝(スタッフ)
4	平成26年6月 15日(日) 10:00～ 12:00	2時間	久芳地域 センター	4人	中国(3)、日 本(1)	生活<ゴミの分別> 日本での生活に必 須のゴミの分別方法 とその意味を学ぶ	「にほんごきょうしつ東 広島」と合同でゴミの分 別方法を学ぶ	奥村玲子	
5	平成26年6月 22日(日) 10:00～12: 00	2時間	久芳地域 センター	4人	中国(3)、日 本(1)	余暇<交通機関の 選び方> 日本での余暇を豊 かな時間にするた めに、交通機関の選 び方(インターネット 利用)を学ぶ	課題プリント(西条～東 京のいろいろな交通機 関について)→実習 (実際にインターネット の路線検索に入力して 適当な交通機関を探 す)→感想発表、自由 会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)

6	平成26年6月29日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(4)、日本(1)	健康<健康診断>病院の利用法について学ぶことは多いが、健康診断の学びは少ないので取り上げた	文法演習(受け身、使役、可能など)、課題プリント(健康診断用語、健康診断の意味)。実際に血圧をはかる。健康診断や健康についての自由会話	奥村玲子	
7	平成26年7月6日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(4)、日本(1)	健康<肌の手入れ>健康という視点でも、肌の健康を取り上げることは少ないので取り上げた。女性学習者のみなので関心度も高い。	語彙演習(抱く、抱えるの違い)、課題プリント(スキンケアに関する基礎用語、知識確認)、自分のスキンケアについて発表、自由会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)
8	平成26年7月13日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	6人	中国(5)、日本(1)	地域<お盆について>独特の習慣もあり、地域密着テーマとして取り上げた	課題プリント(日本のお盆の知識、習慣、行動)、発表(日本での経験)、自国との比較など)、自由会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)、山崎直子(ボランティア)
9	平成26年7月20日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(3)、日本(2)	安全<交通安全>日頃利用の多い自転車のルールを確認する	にほんごきょうしつ東広島と合同で交通安全(自転車)について学ぶ	奥村玲子	
10	平成26年7月27日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(4)、日本(1)	安全<個人情報>自分を守るために現代社会で必須の知識を確認する。	課題プリント(個人情報の基本用語、注意点確認)、発表(自分の暗証番号についてのエピソード、クレジットカードについて)、自由	奥村玲子	山崎直子(ボランティア)
11	平成26年9月7日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	3人	中国(3)	地域、安全<広島市の土砂災害>災害への注意喚起。自分の住んでいる所の災害の可能性、避難方法などを学ぶ	課題プリント(災害用語、防災意識の確認)、発表(自分ならどう行動するか?)、自由会話	奥村玲子	
12	平成26年9月14日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	4人	中国(2)、日本(2)	生活<海外送金方法>お金は関心の高いテーマの一つである。	課題プリント(海外送金の基本知識、用語)、発表(自分に適した海外送金方法)、自由会話	奥村玲子	間瀬尹久
13	平成26年9月21日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	3人	中国(3)	生活<給料、給与明細の見方>お金に関するテーマの一つとして	課題プリント(給与明細表、言葉の意味を理解する)、給料、税金、保険などについての自由会話	奥村玲子	
14	平成26年9月28日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(4)、日本(1)	日本語、日本事情<顔文字の日中比較>感情や気持ちの表	課題プリント(日本、中国の顔文字を比較する)、自由会話	奥村玲子	
15	平成26年10月19日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	6人	中国(4)、日本(2)	アンケート 学習者のレベル、必要な学習項目、学習意欲の確認を行う	文化庁「生活上の行為達成の記録」をアンケートとして行う	奥村玲子	間瀬尹久
16	平成26年10月26日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	2人	中国(2)	日本語 文法学習(学習者から文法学習の希望あり)	課題プリント、答え合わせ、質問、自由会話	奥村玲子	
17	平成26年11月2日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	4人	中国(4)	余暇、季節<日本の秋>日本の秋について、多方面から考える。特に行楽について、カタカナの読みを確認する	文法演習、課題プリント(日本の秋、行楽、カタカナの読み)、内容について自分の経験を話す。自由会話	奥村玲子	
18	平成26年11月9日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(4)、日本(1)	黒瀬教室との交流会	にほんごわいわい黒瀬教室と交流会。全員で日本語を使ったゲーム、少人数グループに分かれて自己紹介、グループ対抗日本語ゲーム、感想を書く、発表	奥村玲子	
19	平成26年11月16日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	6人	中国(4)、日本(2)	生活<日本の贈り物習慣>日本の習慣を理解する。	文演習、課題プリント(贈り物の知識、中国との比較)、自由会話	奥村玲子	
20	平成26年11月23日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	6人	中国(4)、日本(1)、ペルー(1)	生活、日本事情 消費税、流行語大賞	課題プリント1(漢字教材)で消費税について、課題プリント2(2014年の流行語大賞の言葉について)、自由会	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)
21	平成26年11月30日(日) 10:00~12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(5)、ペルー(1)	日本事情<外国人女性が、日本で何に驚くか>	課題プリント(日本のトイ)、自由会話、今日新たに覚えたことを発表	奥村玲子	張(ボランティア・中国)

22	平成26年12月7日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	5人	中国(3)、日本(1)、ペルー(1)	生活<料理レシピ> 味噌汁の作り方で料理用語を学ぶ 余暇<行きたいところ> 浅草情報	文法演習、課題プリント(学習者のリクエスト)、1:基本的な日本の料理、2:行きたい所、自由会話、今日新しく知った事を発表	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)、 井山敬子(スタッフ)
23	平成26年12月14日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	3人	中国(2)、ペルー(1)	日本語<音読みと訓読み> (学習者からのリクエスト)	課題プリント(漢字歌コンクール(漢字の音読み訓読みを使った俳句)の小1～小6の入選作を読む)、自由会話	奥村玲子	間瀬尹久(スタッフ)
24	平成26年12月21日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	2人	中国(2)	生活、季節<年越し> 季節の行事を学ぶ	ひらがなタイムスを読む、課題プリント、自由会話	奥村玲子	
25	平成27年1月11日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	3人	中国(2)、日本(1)	健康<花粉症> 中国ではまだなじみのない花粉症について学ぶ	課題プリント(花粉症の知識全般)、自由会話、今日初めて知った事を発表	奥村玲子	
26	平成27年1月18日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	2人	中国(1) 日本(1)	日本語、日本事情 天風録	中国新聞の天風録を2つ読む。自由会話	奥村玲子	
27	平成27年1月25日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	0人		安全<119への電話	「にほんごきょうしつ東広島」と合同 *福富教室では参加者がすでに以前講習を受けたものが多く、学習者自身が参加しなくてもいいと判断したとのことだった。	奥村玲子	
28	平成27年2月1日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	3人	中国(1)、日本(1)、台湾(1)	日本語、日本事情 天風録	中国新聞の天風録を2つ読む。自由会話	奥村玲子	
29	平成27年2月8日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	2人	中国(1)、日本(1)	日本語、日本事情 天風録 曖昧表現	中国新聞の天風録を2つ読む。自由会話、日本語の曖昧表現について書かれた文章(ひらがなタイムス)を読む 自由会話	奥村玲子	
30	平成27年2月15日(日) 10:00～12:00	2時間	久芳地域センター	1人	中国(1)	日本語、日本事情 サラリーマン川柳	過去のサラリーマン川柳の入選作を読む。自由会話	奥村玲子	

## (8) 受講者の募集方法

- ①募集チラシを作成し東広島市教育文化振興事業団コミュニケーションコーナーに置いた。
- ②募集チラシを東広島市教育文化振興事業団ホームページ(<http://hhface.org/corner/jp.html>)に掲載した(教室終了に伴い削除)。
- ③東広島市北部地域(福富、造賀)の公共施設にチラシをおいた。
- ④東広島市教育文化振興事業団で行われている、にほんごきょうしつ東広島、にほんごわいわい、にほんごひろばU18に参加経験がある学習者に個別に連絡した(これにより4名が参加)。

## (9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

- ①教室活動の基本的流れ
  - i 文法、語彙などのドリル練習(学習者の希望による)
  - ii 課題プリントを各自及び学習者同士で相談しながら行う(学習者の日本語レベルが比較的高いので、ボランティア無しでも可能)
  - iii 全員で自由会話
  - iv 授業の感想または今日初めて知った事を発表し書く
- ②特徴的な活動1(4回目:平成26年6月22日)
  - i テーマ:交通機関の選び方(西条から東京へ行く方法)
  - ii 出席者:6人(学習者:3人(中国)、奥村)\*中学生学習者1人は当事業団スタッフと自分の課題を学習した。
  - iii わらい:余暇活動を豊かにするための情報を得る。日本語を使って実際にインターネットで調べる。
  - iv 活動の様子
    - a 文法学習:受け身、使役など、担当者が制作したプリントを行った。
    - b 課題プリント:基本用語を確認しながら、自分などの条件を優先するか考えて話し合った(速くて安いのが良い、遅くても良いから安い方がいい、高くても良いから速いほうが好き、など)。
    - c コーディネーターのパソコンで、路線検索、グーグルマップに駅名、交通機関名などを入力し、料金、時間、距離などを調べた(一人ずつ行ったので時間がかかった)
  - \*課題プリントには比較表を準備し、調べた結果を記入する予定だったが、時間が足りずできなかった。
  - d 自由会話を行ったのち感想を書いた。
  - v 学習者の感想(書いた通り)
    - a 旅行について勉強しました。おもしろかったです。インターネットで新幹線の調べ方を初めて知っています。休みの時、北海道に行くつもりです。これから詳しい計画をたてます。
    - b 旅行のいろいろなことを勉強しました。交通機関、速いだけどねだんが高いですが、時間が短いです。どこもいきたくないです。
    - c 旅行へ行きたいところの交通機関を選ぶ。いろいろないきかたがある。わたしは速度が一番速いほうがいい。にほんのばんせん(新幹線?)が大すきです。気持ちがいいです。
  - vi 担当者コメント  
パソコンを使う実践的アクティビティだったので、全員が楽しんで行った。「インターネットで新幹線のことが調べられるのを初めて知った」のように、学習者にとって新たな発見もあった。パソコン画面で条件設定(出発時間、新幹線利用、飛行機利用など)の意味を理解するのは難しかったが、実際の入力(ローマ字)は3人ともスムーズに行った。一台のパソコンで順番に実習したため、全体として時間がかかり予定した課題を終了することはできなかった。「どこも行きたくないです」という感想があったが、これは本人の日頃の言動と整合していた。学習者の本音が聞けたことは、教室活動にとって非常に有益であった。

## ③特徴的な活動2(5回目:平成26年6月29日)

i テーマ:健康診断

ii 出席者:6人(学習者5人(中国4人、日本(中国につながる)1人)、奥村)

iii ねらい:健康への意識を高める、健康に関する基本的語彙の確認

iv 活動の流れ

a 文法演習(使役、受け身、可能)

b 課題プリント:健康診断に必要な語彙を確認し、健康診断の経験、必要性について話す。

c 実際に血圧をはかる

d 自由会話を行った後、感想を書く。

v 学習者の感想(書いた通り)

a 健康診断について勉強しました。いろいろな健康に関する専門語がわかるようになりました。みんな血圧を計りました。楽しかった。

b 健康診断のこといろいろな勉強しました。血圧をはかりました。健康です。可能、受け身、使役のことが練習しました。

c 語法(可能、使役、受け身)の使い方を練習しました。つぎは健康診断なども勉強しました。血圧をはかりました。大丈夫です

d 健康診断を勉強しました。可能形と受け身形と尊敬形を勉強しました。

e きょうは健康診断について学びました。今後は自分が健康になるようにがんばりたいと思います

vi 担当者コメント

福富教室の学習者4人は、会社で1年に1回健康診断を受けている。そのためトピックに対する理解度は非常に高かった。血圧測定は、全員が「やりたい！」と積極的に行った。全員上の血圧が100くらいだったので、学習者の感想にも「(血圧が正常だから)健康です」と安心した様子が見えがえる。プリント学習や会話だけでなく、アクティビティがあると学習に変化が生まれ、メリハリのある活動ができると実感した。なお活動のメインテーマは健康診断だったが、感想では3人が文法学習に触れていた。ひとりの学習者からは、直接「もっと文法学習をやりたい」という希望も告げられた。そのため、この頃から教室活動の導入として、文法演習を取り入れるようになった。

## (10) 目標の達成状況・成果

①本事業の目的である、東広島市中心部ではない北部、南部地域で日本語教室を行い、中心部の教室に来られない学習者に日本語学習の場を提供する、地域住民との交流を図りつつ行い、日本語学習の場を提供することについては、達成度はあまり高くないと考える。なぜなら北部地域在住の学習者は3人が継続的に(平成26年12月まで)参加したが、ボランティアの参加が皆無だったからである。よって「学習の場を提供する」とはできたが、「地域住民との交流」はできなかった。

東広島市北部は山間地域であり人口が散在している。外国人も同様に散在している(<http://www.city.higashiroshima.hiroshima.jp/uploaded/attachment/36851.pdf>)。地域内の公共交通機関(バス)は不便かつ高額である。継続参加の3人はバスを使わず、1人が家族による送迎、2人は自転車(教室近辺)で通った。自家用車や送迎のサポート体制を持たない学習者にとって、北部地域と中心地区の日本語教室でアクセスの利便性に大きな違いは無かったことになる。

アクセスが不便、技能実習生が多い。この二つの条件から、北部地域では日曜(休日)以外に日本語教室を行うのは難しい。しかしにほんごわいわい福富は、近隣に娯楽、買い物施設がないため、休日を効率的に活用するにはきわめて不利な立地条件である。これも学習者、ボランティアが参加しにくかった理由の一つであろう。

②日本語教育の実施目的の達成状況、成果について

福富教室では目的の達成状況及び成果を、継続学習者(4人:中国籍)の日本語能力調査(文化庁「生活上の行為達成の記録」(中国語版)に自己評価を記入)とコーディネーターの記録の両面から検証した。

\*日本語能力調査(以下調査)については添付資料参照

i 目的①(安全に生活するための日本語の学習):概ね達成できたと考える。

調査ではカテゴリ I (健康・安全に暮らす)は、全回答数88(設問22×4人)のうち回答A(必要ない、やったことがない)が55となり62.5%を占めた。これは4人が『安全』に関する経験が少なく関心が薄いことを示している。ただし4人の年齢(20代~30代前半)、滞日年数(3年以内)、頼れる人がある(技能実習生、日本人配偶者)という条件から見れば妥当な結果と言える。そこで本教室では、学習者の『安全な生活』への関心を高めるために、学習者に身近な現実味のあるトピックを重点的に選択した。

実際に学習したのは健康診断、肌の健康(紫外線への注意喚起)、花粉症、広島市の土砂災害、災害時安心カード、自転車と防犯、個人情報、ゴミ分別である。このうち自転車と防犯、ゴミ分別は日本語教室東広島(東広島市教育文化振興事業団が行う教授型の日本語教室)に合流して行った。

このようなトピックを選択したことで、教室では活発な日本語会話が行われ、安全に対する意識を高めることができた。以下にその例を示す。

a 個人情報(平成26年7月27日):キャッシュカードやクレジットカードを扱った。中国でキャッシュカードがATMに吸い込まれた経験、中国の暗唱番号は6桁だから日本の4桁は安心できない、暗証番号は誕生日ではあるが旧暦にしているなどの発言が有り、学習者の安全意識が高いことが確認できた。

b 肌の健康(平成26年7月6日):紫外線、汗、保湿、乾燥肌、生理、ニキビ、手入れなど、女性学習者に必須の基本用語を確認できた。全員が自然化粧品に興味を示し、米ぬかパック、きゅうりパックなどについて活発な会話が行われた。

ii 目的②(人間関係を円滑にする日本語の学習):概ね達成できたと考える。

調査ではカテゴリ VII(人とかかわる)の全回答数48(設問12×4人)に対してF(日本語で会話してできる)が41を占めた(85.4%)。学習者の日本語レベルが高く、挨拶などは十分できていたことを考えると、この自己評価は妥当である。この状況を踏まえて本教室では、より高いレベルの「人間関係を円滑にする日本語の学習」機会を提供した。とりあげたトピックは顔文字(感情を表す言葉)、贈り物習慣、お盆や年越しなどの年中行事、日本事情、日本語表現(曖昧語、二つの意味を持つ言葉など)などである。このような学習を続ける中で、学習者が「人間関係を円滑にする日本語」への関心を高めたことは目的②の大きな成果である。以下にその例を示す。ただし「初めて知った事が多かった。難しいですね」というコメントにあるように、実際に活用することは難しかった。

a 日本人配偶者である学習者からは毎回、語彙と文法の質問があった。たとえば「寒くもなく暑くもなく」(平成26年11月2日)で、義理妹の発言「(親が買った洋服は)好きでもなく嫌いでもない」を理解し、また「どうぞおかまいなく」「〜になります」などの丁寧表現、「わけわかんない」など新しい言葉にも強い関心を示した。彼女は家族(配偶者、義理父母、配偶者の兄弟姉妹と近居)や職場でのコミュニケーションの円滑化を強く望んでいる。彼女の質問に応える場を多数提供できたことは、目的②の大きな成果と考える。

b 日本語レベルが高い学習者2人(N1合格1名、ホテルのフロントで就労1名)が、ひらがなタイムズを用いて『反対の意味を持つ言葉(すみません、結構です、適当など)』を学習した(平成27年12月21日)。これらはホテルフロントでは重要語彙である。レベルと必要度、興味に配慮した上級者向けの「人間関係を円滑にする日本語」学習の機会となった。学習者からは「初めて知った事が多かった。難しいですね」というコメントがあった。

c 顔文字をとりあげた(平成26年9月27日)。悲しい、嬉しい、楽しいなど気持ちを表す言葉は、円滑な人間関係には不可欠である。中国の顔文字と比較したことで、日本人の感情表現との微妙な違いも話題に上った。

iii 目的③(地域情報を得る):概ね達成したと考える。

北部山間地域では、買い物、病院、余暇活動など日常生活の大部分を東広島市中心部に依存している。従って地元福富に特化した情報ではなく、東広島市全体の情報を取り上げた。学習内容について学習者から事後報告を得ることも多く、理解度は非常に良かった。よって目的③は概ね達成したと考える。以下にその例を挙げる。

a 「お盆」(平成26年7月13日)では、盆灯籠など広島県西部独特の習慣を取り上げ、写真で示した。日本人配偶者は盆灯籠、盆踊りなどの体験を語り、「お盆には良いお嫁さんです」という感想を述べた。盆踊りの日は雨だったので「公民館で行なったのでつまらなかった」という事後報告もあった。他の学習者は、スーパーの店頭で撮影した盆灯籠の写真を見せてくれた。

b 「ゴミ分別」(平成26年6月15日)、「交通安全(自転車)」(平成26年7月20日)は、『にほんごきょうしつ東広島』(東広島市教育文化振興事業団が行う教授型日本語教室)に合流して学習した。東広島市全域に共通する事項の良い学習機会となった。なお「ゴミ分別」ではNHKの取材が入り、福富教室の学習者がローカルニュースで堂々と感想を述べた。学習者の知人から「言っていることがよくわかった。日本語がうまい」という感想が多数寄せられたという事後報告があった。

c 学習者の要望で東京、京都、大阪など、より広い地域の情報も提供した。学習者からも頻繁に出身地域(ハルビン、威海、南京など)の情報提供があり、お互いの地域、文化を理解し交流を深めるという面でも非常に有効な学習を行った。

## (11) 改善点について

## ①教室継続の方向性での改善点

## i 開催場所、日時の再検討

本年度の状況からみて、今後北部山間地域で「今の場所、今の時間」で教室を継続するのは難しい。しかし本教室が昨年度、地域在住学習者（技能実習生）の雇用主から要請を受けて始めたものであることを考えれば、新たな需要を発見する余地はある。日時、場所、広報などを再考し地域の関係者と連携を深める必要がある。

## ii ボランティア募集方法の再検討

交流型の教室活動を行うには、ボランティアの参加は必須である。そのためには教室開催日時の検討とともにボランティア向け広報の内容改善が望まれる。特に日本語ボランティアとは「日本語を教えるというより、地域の外国人と交流し、ともに暮らしやすい地域を作っていくひとりの人間」であることを周知していく必要がある。

## iii ボランティアが確保できないことを前提とした教室運営の必要性

コーディネーターは日本語レベルの異なる学習者、突然参加する学習者を受け入れるために、ボランティアがいないことを前提とした教室準備をする必要がある。

## ②新たな方向性の模索

本事業の目的の一つは『地域住民との交流を図りつつ日本語学習の場を提供する』ことである。しかし、地域の交通事情、教室の立地条件などを見る限り、北部地域では日本語教室に“時間を作って参加する”のは、かなり困難な行動である。そこで考えられるのは既存の行事などを通じて、外国人住民が『地域住民と交流』する中で、自然に日本語に触れる機会を増やすことである。地域には盆踊り、とんど(正月行事)のような伝統行事が数多く有り、さらに道の駅湖畔の里福富では、頻りにイベントが行われている。これらに外国人住民が気軽に参加できるような体制作りを行うことは、地域の多文化共生へ向けての有効な取り組みになると考える。

## 5-2. 南部教室

(1) 講座名称 にはんごわいわい安芸津

## (2) 目的・目標

学習者の生活の質を上げるために

- ①安全に生活するための日本語を学習する。
- ②地域や職場での人間関係を円滑にするための日本語を学習する。
- ③地域活動などの情報を得る。

(3) 対象者 東広島市安芸津町および周辺地区在住の外国籍住民(技能実習生、日本人配偶者、永住者など)

(4) 開催時間数(回数) 68 時間 (全 34 回)

(5) 使用した教材・リソース 自主制作課題プリント、文化庁カリキュラム案、せいかつのにほんご1、2など

(6) 受講者の総数 19 人

出身・国籍別内訳

中国	5人	インドネシア	3人	
韓国	0人	タイ	0人	台湾1人、インド1人
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	1人	フィリピン	8人	*ボランティアとして参加(学習者総数19人の他に):中国3人、インドネシア1人
ネパール	0人	日本	0人	

## (7) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年4月 11日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	8人	中国(3)、フィ リピン(4)、イ ンドネシア(1)	自己紹介	文化庁カリキュラム案 の自己紹介プリントを 記入。それを見ながら 全員の前で自己紹介。 自由コメント。名前、住 所を書く練習	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子、 間瀬尹久、奥村梓生子
2	平成26年4月 18日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	7人	中国(3)、フィ リピン(4)	社会<公共施設の 使い方および見学 > 教室がある公共施 設を見学し使い方を 学ぶ(担当者が案内)	課題プリント(公共施設 の基本情報確認)、教 室がある公共施設を見 学。実際に申込書(現 物)を記入。住所を書く 練習。	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子、 間瀬尹久
3	平成26年4月 25日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	7人	中国(4)、フィ リピン(3)	生活<ゴミの捨て方 > 日本での生活の必 須事項として	課題プリント(自分の地 域のゴミ出し日を確認 、曜日の言い方、第 一曜日などの言い 方)。「せいかつのにほ んご」の絵を見ながらゴ ミを分別。発表(日本と 自国の比較、感想)。 自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久 恵、 松井安子、間瀬尹久
4	平成26年5月 2日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、フィ リピン(2)	個別おしゃべり	学習とボランティアが 好きなトピックで自由 におしゃべり。発表。自 由コメント	奥村玲子	森下みどり、森下(男2) 山中喜久恵、松井安子、 間瀬尹久
5	平成26年5月 16日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	8人	中国(4)、フィ リピン(3)、イ ンドネシア(1)	安全<自転車の乗 り方> 交通安全は必須項 目。ほぼ全員が利 用している自転車に 焦点を当てる	「せいかつのにほんご」 及び警察HP資料(母 語)で自転車ルール確 認。発表(自分の実態 や感想)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久 恵、 松井安子、間瀬尹久

6	平成26年5月 23日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	8人	中国(3)、フィ リピン(3)、イ ンドネシア(2)	生活、情報<パソ コン、インターネット> 現代社会の生活で は欠かすことのでき ない生活アイテムに ついて学ぶ	課題プリント(ITの基本 用語。カタカナの読 み)、発表(自分の状 況、わからないこと、希 望など)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久 恵、 松井安子、間瀬尹久 アイニン(インドネシア)
7	平成26年5月 30日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	7人	中国(3)、フィ リピン(3)、イ ンドネシア(1)	生活、情報<パソ コン、インターネット> 現代社会の生活で は欠かすことのでき ない生活アイテムに ついて学ぶ	課題プリント(指定単語 をつないで短文作り。 助詞を、でを使う)、発 表(できた短文を読み 上げる)、自由コメント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子、 アイニン、間瀬尹久
8	平成26年6月 6日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	8人	中国(4)、フィ リピン(3)、イ ンドネシア(1)	生活<梅雨> 生活や健康に影響 の大きい梅雨という 季節の特徴や対処 方法を学ぶ	課題プリント(梅雨時の 注意点をを知る。オノマト ベ(雨の降り方)を知 る)、発表(日本と自国の 季節比較)、自由コメ ント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子、 間瀬尹久
9	平成26年6月 20日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	フィリピン (4)、インドネ シア(1)	健康<健康診断> 病院の利用法につ いて学ぶことは多い が、健康診断の学 びは少ないので取り 上げた	課題プリント(健康診断 用語、健康診断の意 味を理解する)。実際 の健康診断結果を見 て問題点を見つける (数字の言い方)。発表 (自分の健康につい て)。自由コメント。	奥村玲子	森下みどり、山中喜久 恵、 松井安子、間瀬尹久
10	平成26年6月 27日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	7人	中国(2)、フィ リピン(4)、イ ンドネシア(1)	地域<安芸津いいと 地域>	課題プリント(安芸津の 産業、人口など特色理 解)、発表(安芸津に 住んでいて感じるこ と)、自由コメント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子
11	平成26年7月 4日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	フィリピン(4)	健康<肌の手入れ > 健康という視点で も、肌の健康を取り 上げることは少ない ので取り上げた	課題プリント(化粧品 の名前(化粧水、乳液 など)確認、オノマト ベ(肌の状態))、発表 (自分の化粧法、自国 の特徴、民間化粧品 など)、自由コメント	奥村玲子	山中喜久恵、松井安子、 間瀬尹久
12	平成26年7月 11日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	7人	中国(2)、フィ リピン(4)、イ ンドネシア(1)	地域<お盆につい て> 独特の習慣もあり、 地域密着テーマと して取り上げた	課題プリント(日本のお 盆の知識、習慣、行 動)、発表(日本での経 験(嫁として)、自国と の比較など)、自由コ メント	奥村玲子	森下(男1)、山中喜久 恵、 松井安子、劉、齋
13	平成26年7月 18日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	中国(1)、フィ リピン(3)、イ ンドネシア(1)	安全<個人情報> 自分を守るために現 代社会で必須の知 識を確認する。	課題プリント(個人情 報の基本用語、注意 点確認)、発表(自分 の暗証番号について のエピソード)、自由 コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久 恵、 松井安子、齋
14	平成26年7月 25日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	中国(1)、フィ リピン(1)、イ ンドネシア (2)、インド (1)	言葉遊び(レクリエー ション)	課題プリント(早口言 葉、言葉集めなど)	奥村玲子	森下みどり
15	平成26年9月 5日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、イ ンドネシア (1)、ベトナム (1)	地域、安全<広島 市の土砂災害> 災害への注意喚 起。自分の住んで いる所の災害の可 能性、避難方法など を学ぶ	課題プリント(災害用 語、防災意識の確 認)、発表(安芸津の 災害、自分ならどう 行動するか?)。自由 コメント、	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子
16	平成26年9月 12日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、イ ンドネシア (1)、ベトナム (1)	健康<蚊、蚊よけ> 日本語教室で取り 上げることは少ない が切実な問題なの で	課題プリント(日本独特 のグッズを知る、動詞: 特に受け身(蚊に刺さ れるなど))、発表(蚊 対策で自分がつがっ ているもの)、自由コ メント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子、 劉
17	平成26年9月 19日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	3人	中国(1)、イ ンドネシア (1)、ベトナム (1)	生活<日本式食事 のマナー> 日本について基本 的なことを知る	課題プリント、食器を並 べてみる、全員の前 で発表(特に自国の食 事マナーとの比較)、全 員でコメントしあう。	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、松井安子
18	平成26年9月 26日(金) 18:00~20: 00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(1)、イ ンドネシア (2)、ベトナム (1)	生活<学習者の国 のお金比較> 初級の新人(数 字)、経験者の両方 が学べる課題として	課題プリント(各国のお 札、硬貨の種類表作 成、数字の言い方)、 発表(特に自国のお金 について)。自由コ メント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、 山中喜久恵、

19	平成26年10月3日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	中国(2)、インドネシア(2)、ベトナム(1)	地域<安芸津の交通機関> 新幹線50年→安芸津は交通不便な土地柄→交通機関への関心を高める。	課題プリント(“新幹線”の話、安芸津の交通についての知識、情報確認)、発表(自国のスピード列車、安芸津の交通で困っていること)、自由コメント	奥村玲子	森下(男1)、山中喜久恵、松井安子、ケイゲンキ
20	平成26年10月10日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	生活<ノーベル賞→LED> 時事問題を自分のこととして考えるきっかけ作り	課題プリント(白熱球、蛍光灯、LEDの電気代を計算して比較する)。発表(計算結果、日本での自分の生活にあっている電気はどれか)。自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久恵、松井安子、施向伸江、ケイゲンキ

21	平成26年10月17日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	健康<健康な食事マーク> 自炊生活者にとって見逃しがちな項目(栄養バランス)なのでとりあげた	課題プリント(たんぱく質、炭水化物など栄養関連語彙、栄養の考え方理解、色の名称確認)、発表(自分の食生活と栄養について)、自由コメント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、山中喜久恵、松井安子、ケイゲンキ
22	平成26年10月24日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	社会<日本人は時間に厳しいか> 日本での生活を振り返るきっかけとして	課題プリント(時間、時刻の言い方確認。残業についての単文作り)、発表(日本と自国の比較)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久恵、松井安子、ケイゲンキ
23	平成26年10月31日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(1)、インドネシア(2)、ベトナム(1)	健康<日本の病院へ行ったことがありますか> 地元の病院事情を確認する	課題プリント(病院の科名を確認)、多言語問診票を配り、その使い方を考える。発表(安芸津での病院体験、その時困ったこと)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、松井安子
24	平成26年11月7日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	中国(2)、インドネシア(2)、ベトナム(1)	地域<牡蠣について> 地元産業、仲間の仕事を理解する	課題プリント(牡蠣に関する基本知識)、牡蠣産業従事の学習者、ボランティアの説明を聞く。発表(特に自国の牡蠣事情)。自由コメント	奥村玲子	森下(男1)、森下みどり、松井安子、ケイゲンキ、間瀬尹久
25	平成26年11月14日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	5人	中国(2)、インドネシア(2)、ベトナム(1)	生活<暖房について> 南国からの学習者もいるので、寒さ対策を検証した	課題プリント(寒さ対策の基本知識理解、グッズの名前を知る)、発表(自分の方法、自国との比較)、自由コメント	奥村玲子	山中喜久恵、施向伸江、ケイゲンキ
26	平成26年11月21日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	3人	中国(1)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	生活<消費税> 時事問題を身近なこととして考える	漢字教材(数字、買い物用語(特に(内税、税別など消費税関連)の理解→実際にいくら払うかを計算)。発表(自国の消費税事情など)、自由コメント	奥村玲子	松井安子、森岡、間瀬尹久
27	平成26年11月28日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	3人	中国(1)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	健康<日本人の居眠り> 日本人の習慣を知る→自分の生活を振り返る	課題プリント(日本人の習慣を知る、眠りに関する言葉:早寝早起き、寝不足などを覚える)、発表(自分の居眠り体験)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久恵、松井安子、森岡、ケイゲンキ、井山敬子
28	平成26年12月5日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	生活<自動販売機について> 日本について振り返る	音読、課題プリント(自動販売機の写真を見て、「どう思いますか?」「いいところは?」など問いかけへの答え方を練習)、発表(自国との比較、意見など)、自由コメント	奥村玲子	山中喜久恵、松井安子、森岡、ケイゲンキ
29	平成26年12月12日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	文化<縁起のいい色と数字> 色、数字など基本語彙の確認と文化比較	課題プリント(色、数字の言い方の確認、縁起のいい色、数、縁起の悪い数などの各国比較表を記入)。発表(自国事情など)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、山中喜久恵、森岡、ケイゲンキ、間瀬尹久
30	平成26年12月19日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(2)、インドネシア(1)、ベトナム(1)	文化<どんな年越しをしますか> 日本の習慣理解と文化比較	課題プリント(年末年始の挨拶の言い方、習慣を知る、「年越しにすること」各国比較表を記入)、発表(自国の年越しについて)、自由コメント	奥村玲子	山中喜久恵、松井安子、森岡、ケイゲンキ、間瀬尹久
31	平成27年1月9日(金) 18:00~20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	6人	中国(2)、インドネシア(1)、フィリピン(3)	健康<花粉症> まだなじみのない花粉症について学ぶ	課題プリント(花粉症に特徴的な症状の言い方、グッズの名前を知る、花粉症と風邪の症状比較表を記入)、発表(感想、自分がかかっているものなど)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、松井安子、ケイゲンキ、間瀬尹久

32	平成27年1月16日(金) 18:00～20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	4人	中国(1)、インドネシア(1)、フィリピン(1)、台湾(1)	社会<成人の日:大人とは?> 社会比較、数字など基本的な日本語理解のために	音読、課題プリント(成人年齢各国比較表記入、年齢の言い方、単文つくり「～才で～ができます」)、発表(自国事情、日本との比較)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、ケイゲンキ
33	平成27年1月23日(金) 18:00～20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	3人	中国(2)、インドネシア(1)	社会<左利き右利き、身体の左右> 身体の部位の確認のために	課題プリント(身体の部位の名称確認、実際に動作をやってみて動詞を確認)、発表(自分利き～について)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、ケイゲンキ
34	平成26年2月6日(金) 18:00～20:00	2	安芸津B&G 海洋センター	2人	中国(1)、インドネシア(1)	生活<コンビニおにぎり> 日本の庶民の食生活を体験する	音読、課題プリント(形の言い方:まる、さんかくなど、両手から派生して両のつく言葉を考える)、実際にコンビニおにぎりを開けて食べる。発表(感想など)、自由コメント	奥村玲子	森下みどり、松井安子

### (8) 受講者の募集方法

- ①募集チラシを作成し東広島市教育文化振興事業団コミュニケーションコーナーにおいた。
- ②募集チラシを東広島市教育文化振興事業団のホームページに掲載した(リンク先<http://hhface.org/corner/jp.html>)
- ③在籍学習者、ボランティアに新規学習者をいつでも受け入れることを常に伝えている。
- ④安芸津地区にある公共施設(地域センター、社会福祉協議会など)にチラシをおいた。
- ⑤周知については安芸津漁業協同組合の協力を得た。

### (9) 特徴的な授業風景(2～3回目)

- ①基本的な教室活動の流れ
  - i やさしい日本語で書かれた読み物の音読(トピックによっては行わないときもある)。
  - ii 課題プリントをボランティアとペア、または小グループで行う。
  - iii その日の学習内容について、学習者はボランティアのサポートを得ながら発表する。ボランティアもその日の活動について感想などを発表する。
  - iv 発表を聞いて疑問に思ったこと、質問など、その都度コメントし全員で話し合う。
- ②特徴的な活動1(2回目:平成26年4月18日)
  - i テーマ:公共施設見学
  - ii 出席者13人(学習者:7人(フィリピン、中国)、ボランティア5人、奥村)\*学習者のひとり小学1年生
  - iii ねらい
    - a 内容:日本語教室を行っている公共施設(安芸津B&G海洋センター)について知り、生活を豊かにするための情報を得る。
    - b 日本語:時間、料金、設備の名称など基本用語を日本語で読む。住所を日本語で書く(日本語で書けない学習者が多かったの)
  - iv 活動の様子
    - a 安芸津B&G海洋センターのHPのコピー配布。
    - b それを見ながら課題プリントをボランティアと一緒に行った(温水プール、体育館など基本用語に読み仮名を書く。休みの日、利用時間などを書く)
    - c 自分の書いたプリントを持って、センターの担当者の案内に従い温水プール、体育館、小体育室、器具庫などを見学した。担当者の日本語説明を聞き取るのは大変だったので、適宜奥村が英語、ボランティアが中国語の補足を入れた。
    - d 教室に戻り、実際に利用申請書を書いた。
    - e 見学の感想、この施設を使うとしたら何をしたいか、を発表した。
    - f 学習者、ボランティアの反応(この回は自己評価を行っていた)
      - a 「説明を日本語で理解する」の自己評価は、「できる」2人(フィリピン)、「まあできる」1人(フィリピン)、「あまりできない」3人(中国)となった。「できる」2人は滞日4年以上で生活体験が豊富である。「できない」3人はいずれも技能実習生で、滞日半年～1年半である。「まあできる」1人は滞日3年半(複数回滞在の通算)である。フィリピン語によるサポート(「できる」学習者から)が理解を助けたと思われる。
      - b 「あまりできない」と答えた3人(中国)も、プリント(漢字)を見て内容を理解できた。一人は日本語を聞き取って施設の名前に中国語訳をつけることもできた。一人は「使用料がとても安いのに驚いた」ことを一生懸命伝えてきた。使用料が安いことを知っていた学習者は皆無であり、外国籍住民に情報が伝わっていないことが判明した。今回、安いことがわかったので、これからは利用したいという学習者もいた。行政の情報伝達方法が常に日本人に焦点が当たっていることへの改善が望まれる。その後、月に1回程度プールを利用して学習者がいる。
      - c 長年安芸津に住んでいるボランティアも、全員初めての見学だった。とても良い施設なので「もっと広報したら良い」という意見がでた。
  - vi 担当者コメント
 

全体としてアクティブで良い企画だったと考える。日本語での説明は理解が難しかったが、実際に施設を見ながらであり、課題プリント、HPコピーなど補助教材もあったので、全員何とか理解ができた。座って学習するだけでなく、動きのある学習の必要性を実感した。

③特徴的な活動2(20回目:平成26年10月10日)

i テーマ:ノーベル賞からLED電球へ

ii 出席者:9人(学習者3人(ベトナム、中国、インドネシア)、ボランティア5人、奥村)

iii ねらい

a 内容:日本人のノーベル賞受賞を伝え、それが生活に直結することを知る。

b 日本語:数字、時間など基本的な語彙の再確認(9月から参加の日本語初級者に照準をあてた)。計算しながら、たくさん話す。

iv 活動の様子

a 3種類の電球(LED、白熱球、蛍光灯)を準備し、全員が手にとって見た。学習者からLEDが「重い」という感想がでた(実物を用意したことで、言葉に実感が伴っていた)。

b 課題プリント:LED電球の基礎知識を確認し、良いところ、悪いところをあげた。

c 3種類の電球の比較表を配った。表にあらかじめ記入しておいた数値と実物のカバー(何時間使えるか書いてある)を見ながら、自分にとってどの電球が安上がりかを計算した。技能実習生のように3年間滞在なら蛍光灯が一番安上がりだった。

d 計算結果を発表した後、各自が感想を発表し、全員で自由にコメントを述べた。

v 学習者、ボランティアの反応

a 課題プリントにクリスマスイルミネーション(LED使用)の写真を載せた。インドネシア人学習者が安芸津である事に気づき、そこからボランティアとの間で安芸津の話が盛り上がった。彼は安芸津在住4年だが、地域になじんでいて近隣住民とのつきあいもある。自分が住んでいる場所への関心の高さがわかった。

b 初級レベルのベトナム人学習者に対して、ボランティアは共通理解項目(数字、時間、計算記号)とやさしい日本語をフルに活用して会話を試みた。学習者は「やること」がよく理解できたので、順調に計算を行った。課題終了後、LEDから連想したのか、学習者が自らCD、DVDなど全員が理解できる言葉を選び、積極的に会話を試みた。

c 中国人学習者は、中国人ボランティアの助けもあり、課題を順調にこなした。母語話者のボランティアがいると、細かい話ができるので学習者は安心する。しかし、日本語学習へのモチベーションは下がり安易に流れてしまう。母語話者のサポートは、バランスに注意して行う必要がある。

v 担当者コメント

母語、日本語レベルがそれぞれ違う3人に対して、一つのテーマで効果的に日本語を学ぶ(たくさん話す)方法を模索した。内容理解のために母語資料を用意し、計算の条件がわかりやすいようにあらかじめ比較表を作成した。計算が苦手な人もいたが、みな試行錯誤で一生懸命取り組んだ。ベトナム人学習者は来日して日が浅く、日頃職場で怒られることが多い(雇用主ボランティア談)。しかしこの日は計算スピードを賞賛されて、満足な表情を浮かべていた。日本語ができないことで、学習者は職場などで劣等感を抱くことも多い。日本語教室が「自分の能力を發揮し認められる場」になれば、学習者の意欲が高まると考える。

## (10) 目標の達成状況・成果

①本事業の目的である、東広島市中心部ではない北部、南部地域で日本語教室を行い、中心部の教室に来られない学習者に日本語学習の場を提供する、地域住民との交流を図りつつ行う日本語学習の場を提供する。に関しては、目的をおおむね達成したと考える。理由は以下の通りである。

i 学習者19人中15人が安芸津及び隣市の竹原市の住民であった。内2人は、東広島市中心部の日本語教室に参加した経験がある。しかし遠距離なこともあり、継続は困難であった。2人からは「安芸津に教室ができたからこちらに参加する」というコメントを得た。

ii ボランティアは、継続的に参加した4人が安芸津在住者であった。

iii 参加者は、車利用者、自転車利用者に限られ、公共交通機関を使つての参加者はいなかった。

iv 学習者とボランティアが、教室外でも言葉を交わすようになった(日常の買い物で出会っておしゃべり、学習者の職場(温泉施設)で出会っておしゃべり、怪我をした学習者にボランティアが医薬品を届けるなど)。

v 全体として出席数が先細りになったので、周知活動などは再考を必要とする。

vi 当教室には技能実習生の雇用主であるボランティア(1人)が継続的に参加している。彼女は当事業団スタッフの聞き取りに対して「一週間に一回仕事以外のふれあいの場があるのは貴重。中国語母語話者のボランティアがいることで細かいコミュニケーションが可能となり非常に助かる。中国人技能実習生の日本語理解度が上がり仕事がしやすくなった」とコメントし、当教室が安芸津地域に存在する意義を示してくれた。

## ②日本語教育の実施目的の達成状況、成果について

安芸津教室では、開始当初、毎回、学習者の理解度自己評価、ボランティアから見た理解度評価を試みた。しかし学習者とボランティアの評価が同じになり、しかも評価レベルが変わらなかった。そのためこの方法は断念した。

一方、福富教室で実施したような「生活上の行為達成の記録」(文化庁)を用いたアンケート調査は行えなかった。学習者の母語が多岐にわたる(中国語、インドネシア語、フィリピン語、ベトナム語)ため、母語版無し(中国語以外)では調査が難しいと判断した。そのため残念ながら客観的な評価指標は得られなかった。そこで、教室コーディネーターの記録から事例(事実)を拾い上げ、定性的に目標の達成状況を検証する。

i 目的①(安全に生活するための日本語の学習):かなり達成できたと考える。

交通、健康(病院、栄養バランスなど)、個人情報、災害など、安全な生活に関する教室活動を10回行った。中でも健康診断、栄養バランスは、従来あまり取り上げられなかったトピックである。このような学習の結果、初級学習者には新たな語彙(以下の《》)の習得、日本での生活歴が比較的長い学習者には、それまで何となく知っていた語彙を再確認する機会となった。中には新たな語彙が定着し、会話の中で効果的に使えるようになった学習者もいる。以下にその例を示す。

a 学習者の一人が職場の健康診断で《尿酸値》の異常を指摘されたが、「なぜこのようなこと(健康診断)をするのか。意味がわからない。お節介だ」と(母語で)反応した。そこで緊急性のあるトピックとして『健康診断』を取り上げた。《血圧》、《コレステロール》など、基本語彙を確認し、その必要性を改めて確認する機会となった。さらに《盲腸》の手術費用に話が及び、お金の面からも健康診断は大切だという結論に落ち着いた。

b ベトナム人実習生受け入れ組合のHP(<http://kii2.exblog.jp/11428052>)を見て、「栄養バランス」を取り上げた。中国人学習者の「週に2~3回餃子を食べる」という発言から、餃子は《小麦粉》(《炭水化物》)、キャベツや白菜(《野菜》)、肉(《たんぱく質》)がそろっていて《栄養バランス》がすばらしいという話につながった。なお中国人学習者は後に、身体を温める食べ物として「《小麦粉》を入れたとろとろの食べ物」、「自分のソールフードは《小麦粉》(餃子、饅頭、餅などの総称として)」のように、小麦粉という言葉が自然に使えるようになった。自分が作った餅(小麦粉)をメンバーに振る舞ってくれたこともある。

c 「個人情報」では、《キャッシュカード》、《暗証番号》などについて取り上げ、キャッシュカードをなくしたときの連絡会話練習も行った。フィリピン人女性学習者たちはクレジットカードについて「良く分からないからもたない!」持っていたら使いすぎてしまう」と発言。堅実な生活を営んでいることがわかった。避けるべき暗証番号としては、ほとんどの学習者から即座に「誕生日」という発言があった。現代社会で最も重要な安全情報を日本語で学ぶことができたことと考える。

ii 目的②(人間関係を円滑にする日本語の学習):基礎固めができたことと考える。

②の目的達成のためには、基本的な語彙(数字、色、身体部位など)や話題を増やすとともに、日本語での会話に慣れることが必要である。安芸津教室では1年間を通して『課題、ペアワーク、結果の共有』という学習形態を取り入れ、学習者が日本語で会話を「しなければならぬ」状況を作り出した。学習者が日本語を使う機会(聞く、話す)を十分に提供したと考える。ボランティアも課題解決のために、何とかして伝えようと努力した。このため継続的に参加した学習者は、日本語コミュニケーションの基礎ができつつあると考える。以下にその例を挙げる。

a 「LED電球」。白熱球、蛍光灯と比較して、自分にとって経済的なのはどれかを探した。どのペアも苦戦したが、数字、計算、記号という共通理解事項を提供したことが、コミュニケーションの大きな助けとなり、初級学習者も含めて全員が結果を出すことができた。なお、技能実習生のように3年間滞在场合は、電球代、電気代を総合すると、蛍光灯が最も安いという結論を得た。

b 「居眠り」では1年以上継続参加の中国人学習者のコミュニケーション力向上が目立った。この日は奥村とペアを組んだが、「学校の授業での居眠りするときは教科書を立てた。席が一番後ろだった。自分は頭が悪かったから居眠りしても先生は気にしていなかった」など積極的に話した。さらに「通勤電車の中で男性にもたれて眠る女性」の写真には「女性がすてきな人ならそのままにしておく」とコメントした。通勤を「仕事に行くバス」と表現するなど、自分の知っている言葉で何とかして伝えようとする姿勢も目立った。彼のこの姿勢はボランティアに好意的に受け止められている。

iii 目的③(地域情報を得る):達成度は高いと考える

学習者、ボランティアがともに地元住民がほとんどだったため、安芸津(及び竹原市)に関するトピックを積極的に取り上げた(2、3、10、12、15、18、22、23回)。情報を得て、それを生かす学習者も出てきた。さらに学習者が情報を発信する例もあった。

<特筆すべき事例>

a 2回(公共施設見学)では、教室のある安芸津B&G海洋センターを見学した。B&G担当者の説明(日本語)の聞き取りは、多くの学習者にとって難しかった(ボランティアの評価)、しかし申請書の現物を書く中で、可能なスポーツ、利用料、利用時間などが伝わった。さらに日本語で住所を書く練習としても有効だった(第1回で書けなかった学習者が多かったため)。平成27年3月現在、定期的にプールを利用している学習者が1人いる。

b 3回(ゴミ)では、数年間ゴミ袋の色を間違えて出していたことが判明した学習者がいた(フィリピン、日本人配偶者)「今までだれもおしえてくれなかった。これで大丈夫」とのコメントを得た

iii 10回(安芸津のいいところ、好きじゃないところ)では、ボランティアからも「地元に対して新たな発見があった」という声が上がった。また、自分では当たり前になっていることに対して、学習者のいろいろな感じ方、見方がわかって興味深かったという意見も出た。

c 24回(牡蠣)では、実際に牡蠣養殖に従事している学習者から、牡蠣の種類(まがき)、おいしい季節(11月より1月)、自分は「生では食べない」などの発言(情報提供)があった。

## (11) 改善点について

### ①教室開催時間の再検討

本年度は毎週金曜日18:00～19:30であったが、実際の開始は毎回18:30頃であった。教室開始当初、漁業協同組合と協議して決定した日程だったが、その後漁業(牡蠣養殖)関係学習者の数は伸び悩んでいる。一方、造船業関係の学習希望者が複数いるが、残業があるため教室参加が難しい状況となっている。今後、曜日、時間の見直しは必須事項と考える。なお3月に18:30開始を試したが、造船業関係学習者が複数参加した。

### ②周知、広報活動の工夫

安芸津地区の外国人人口は推定200人とされ、技能実習生が多い(<http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/uploaded/attachment/36851.pdf>)。人口から見れば、日本語教室の出席者は多いとは言えない。今後、広報周知活動に一層の工夫が必要と

なると考える。漁業協同組合との連携だけでなく、造船業関係者との連携を作ることも必要である。

### ③内容の精選、配付資料の簡素化

本年度は毎回、日本語レベルの異なる学習者、母語の異なる学習者が同じ課題を学習した。そのため学習者に個別に配布する母語資料、補足資料がかなり多くなった。そのため学習者、ボランティアともに、学習中にしばしば混乱した。学習内容の精選、配付資料の簡素化が課題であると考え

### ④評価方法

本年度は学習者の入れ替わり、母語の多様性などから、学習者の日本語能力を評価(自己評価を含めて)できなかった。学習内容の再検討のためにも、今後何らかの形で日本語能力評価を行う必要がある。

## 6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

### (1) 講座名称

多文化共生社会推進を目指した日本語ボランティア養成講座

### (2) 目的・目標

日本語ボランティアは、

- ①多文化共生社会とはどんな社会かを知る。
- ②生活の質を上げるための日本語学習とは何かを知る。
- ③日本語ボランティアの役割を踏まえた上で、日本語支援の方法を知る。

### (3) 対象者

東広島市内に居住もしくは就業する人。特に安芸津地区、福富地区に居住、就業する人で、外国人市民と交流したい人。また、日本の多文化共生社会の推進について興味のある人。

### (4) 開催時間数(回数) 34時間 (全12回)

### (5) 使用した教材・リソース

講師が準備したハンドアウト、日本語教材(みんなの日本語1、日本語これだけ1、2、にほんごおしゃべりの種、日本語宝船、ひらがなタイムズ)

### (6) 受講者の総数 145人

出身・国籍別内訳

中国	4人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	マレーシア 1人、台湾人1人
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	8人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	130人	

## 7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成26年5月 11日(土) 13:30 ～16:30	3時間	東広島市市民 文化センター	34	中国2 ベトナム1	外国人市民とともに まちづくり	これまでの多文化共生 の取り組みについて特 に行政の立場から述 べた。	北脇保之	奥村玲子
2	平成26年6月 29日(土) 13:30 ～16:30	3時間	東広島市市民 文化センター	31	中国2	多文化共生を進め るために私たちにで きること	多文化共生の組み みについて。特に日本語 活動の枠だけではなく、当事者の主体的活 動に対するサポートの 事例などを取り上げ た。	土井佳彦	奥村玲子

3	平成26年7月27日(土) 13:30 ～16:30	2時間	東広島市市民文化センター	27		多文化共生を目指したまちづくりをする	地域の多文化共生社会実現のためのNPOとしての取り組みについて述べ、行政、教育委員会、事業所などとの連携について紹介した。	明木一悦	奥村玲子
4	平成26年8月24日(土) 13:30 ～16:30	2時間	東広島市市民文化センター	36	ベトナム8 フィリピン1	多文化共生を目指した日本語教室をデザインする	地域日本語教室の可能性について、特に受け入れ市民に対するアプローチの方法などについて紹介した。	伊藤美智代	奥村玲子
5	平成26年9月21日(土) 10:00 ～12:00	2時間	東広島市市民文化センター	40		日本語ってどんな言葉	日本語という言葉は世界の言語から見てどのような特徴があるのかについて述べた。	岩田一成	—
6	平成26年9月21日(土) 13:30 ～15:30	2時間	東広島市市民文化センター	41		ボランティアのための日本語教育文法	ボランティアが知っておくべき日本語文法の基礎について説明した。	岩田一成	奥村玲子
7	平成26年10月25日(土) 13:30 ～16:30	3時間	東広島市市民文化センター	33	マレーシア1	日本語の音声	日本語の音声の特徴について紹介し、何が日本語らしさを印象付けるかについて説明し、学習者には何が難しいのかを紹介した。	石澤徹	奥村玲子
8	平成26年11月6日(木) 18:30 ～21:30	3時間	東広島市市民文化センター	20	台湾1 中国1	第1回 コミュニケーションを重視した活動	地域日本語教室の活動に必要なコミュニケーションの方法について述べ、特に聞き方について実践的な活動をした。	吉本由美	奥村玲子
9	平成26年11月20日(木) 18:30 ～21:30	3時間	東広島市市民文化センター	22	台湾1	第2回 コミュニケーションを重視した活動	コミュニケーションを活発にする話し方について実践的な活動をした。	吉本由美	奥村玲子
10	平成26年11月27日(木) 18:30 ～21:30	3時間	東広島市市民文化センター	23	台湾1	第3回 コミュニケーションを重視した活動	第8回、9回の活動を踏まえ、実際に学習者と話をする中で、日本語のサポートがどうあるべきかについて示した。	吉本由美	奥村玲子
11	平成26年12月8日(木) 18:30 ～21:30	3時間	東広島市市民文化センター	17	中国1	第1回 入門・初級の学習者と話す	コミュニケーションのための教材について、特に初級の教材について紹介し、どのように使えば効果的なのかについて説明した。	間瀬久久	—
12	平成26年12月18日(木) 18:30 ～21:30	3時間	東広島市市民文化センター	13	中国1	第2回 中級以上の学習者と話す	中級以上の学習者向けの教材を紹介し、コミュニケーション力伸長のための使い方について説明した。	間瀬久久	奥村玲子

## (8) 受講者の募集方法

市広報紙、当該事業団のホームページ及びfacebookで広報を行った。また、当該事業団に登録している国際交流ボランティアに文書で広報した。作成したチラシは別紙参照。

## (9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

授業報告は別添レジュメ参照。また、活動風景の写真は別紙。

## (10) 目標の達成状況・成果

達成状況、成果については別紙アンケート結果参照。

## (11) 改善点について

①東広島市では「日本語教室は多文化共生社会推進」施策の一環として位置づけられている。しかし、これまで、ボランティアに「多文化共生」についての説明や、「日本語教室になぜボランティアが欠くべからざるものなのか」を説明する機会が与えられていなかった。今回の事業により、「多文化共生社会を目指した日本語教室」という位置づけをボランティアに知ってもらうこと、また、その方針により、ボランティアは学習者と地域の架け橋であることを自覚し、よりよいサポートができるように内容を設定した。ただ、すべての講座に参加したボランティアは1名であり、12回のうち半数以上出席した人は参加者数145人のうち7名であった。このことから、各回における評価は高い(各講習会のアンケート結果参照)ものこちらの意図が参加者に届いたとは言いがたい。シリーズで行う講習会には、できれば、回数2/3は参加することを義務付けるなど、継続参加が望ましい。ただ、そうするとボランティアが少なくなってしまうという恐れが事務局にあり、難しい。すぐに解決できない問題であるが、まず、多くのボランティアが参加しやすい日時を設定を試みたい。

②今回の講習会参加者の年齢を見ると、30代以下が極端に少ない。講習会の広報においては東広島市企画課の協力を全面的に受け、市の広報にも開催日などの情報を掲載している。また、担当者も講習会にはできる限り参加している。広島大学日本語教育専門の教師からも学生への周知などバックアップを受けている。しかし、若い人たちにどのようにアピールするかが大きな課題である。また、行政関係者にも、多文化共生を目指す一環としての日本語教育活動について知ってほしいと考える。教育委員会、市役所職員などへの働きかけもさらにしていく必要がある。

## 7. 日本語教育のための学習教材の作成

### (1) 教材名称

「わたしがしりたい せいかつ漢字」

### (2) 対象

漢字学習を必要としている、東広島市民および東広島で就業、学習している人

### (3) 目的・目標

学習者が知りたい漢字の読み方、意味を知り、生活で使用できる漢字を増やすための教材を作成する。

### (4) 構成・総ページ数

#### 1. 構成

①漢字の成り立ち、部首名、書き順など、漢字についての基礎的な知識をはじめに紹介する。

②テキストは、単元のテーマに沿った1字をその単元の見出し漢字とした。テーマは①時間②交通③買い物④病気⑤学校⑥住まい⑦災害に分けそれぞれのテーマごとに3から6の漢字を設定し、「はじめの漢字」として導入部、全部で39の漢字見出しをそれぞれ1単元として、全部で40単元とした。各単元3ページから6ページ前後とし、その単元のテーマに沿った漢言語彙も提示した。その際、できる限り絵や写真など意味の推測を促すものを多用し練習問題を作成した。その字または語彙を入れた例文も示した。

③語彙表を作成し、英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語の訳も入れた。

2. 総ページ数: 本体175ページ(400字換算で152ページ。語彙表(やさしい日本語、英語、中国語、インドネシア語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語訳付)72 ページ(英語語数:1692語))

### (5) 教材作成会議の開催について

#### 【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年5月24日(土) 13:30～15:30	2時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、菅川有希、武重真由美、奥村玲子、間瀬尹久	漢字教材について ・学習者が撮影してきた「読みたい漢字」を紹介検討。 ・どのような漢字を掲載するか検討 ・教材の構成について	どのような感じを取り上げるか、カリキュラム案を参考に検討 構成をどうするか
2	平成26年7月26日(土) 13:30～15:30	2時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、菅川有希、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	・教材の体裁、内容について	・教材をどのような構成にするか ・テーマをどうするか ・どのような漢字を入れるか
3	平成26年8月22日(金) 13:30～17:30	4時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	・取り上げる生活上の行為について	・行為の事例の決定 ・取り上げる漢字の決定 ・担当の決定
4	平成26年8月29日(金) 13:30～17:30	4時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、武重真由美、吉田奈保、間瀬尹久	・内容の統一について	・各自が作成した教材を持ち寄り、内容について討議。 ・レイアウトも統一した。
5	平成26年9月16日(日) 13:30～17:30	4時間		安宅恭子、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. 各担当の内容の検討 2. 改定箇所の確認	・各ページごとに内容の検討をし、改定箇所を確認した。 ・次回までに書き直していただくことを決定した。
6	平成26年9月28日(日) 11:00～17:00	6時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. 各担当の内容の検討 2. 第一次提出期限 3. 語彙表 4. 確認事項	・提出期限: 間瀬作成のたたき台をもとにそれぞれが作成したものを訂正加筆して10月末までに提出。 ・語彙表については、すべてのページが出そろった時点で、提出順を決定し、その後作成(間瀬)
7	平成26年11月8日(土) 13:30～17:30	4時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. 漢字教材を使用した授業での気づきについて 2. 漢字教材内容について 3. 今後作成が必要なもの 4. テキストの分量について	1. 漢字クラスで試用した際の気づきについて担当者より報告。課題としては、日本語レベルにばらつきがあり、特に日本語 I クラスを終えて参加している学習者への対応が必要であるとのことだった。 2. 今後作成が必要なもの ①語彙表、練習シート ②語彙表には見出し漢字だけでなく、掲載している漢言語彙についても語彙表に載せたほうがいい。その際、英語訳などを付ける。 3. テキストの分量について ①1～1単元足りない可能性がある。これについては今後の授業の様子を見て対応することを確認した。
8	平成26年11月15日(日) 10:00～12:00	2時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	テキスト内容について	各自担当部分最新版を持ち寄り、内容について検討した。 検討結果をもとに各自担当部分を改定することを確認した。
9	平成27年1月10日(土) 13:00～15:00	2時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、大角千恵、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. 漢字教材について進捗状況 (1)挿絵について(2)語彙表について 2. 漢字クラスの状況(吉田先生より)	○間瀬より進捗状況を報告 ・語彙表について説明 ①語彙表についてはすでに取り掛かっており、見出し番号29までは終わっている。英語、中国語の訳についても同時に入れていっている。 ②今後はベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語について入れる予定。 ・本体に練習問題を入れることを確認。 ○漢字クラスの状況を報告 ・テキスト内に訂正箇所があることを確認
10	平成27年1月18日(土) 13:00～15:00	2時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、大角千恵、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. テキスト内容について (1) 語彙表について (2) 練習問題について 2. フォントについて 3. 漢字クラスの状況について	1. 間瀬より進捗状況を報告 2. 語彙表の形態、何をどう載せるかについて討議 3. 練習問題の形態について討議 4. 漢字クラスにおける教材の使い方について担当者から説明

11	平成27年2月7日(土) 13:00～16:00	3時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、大角千恵、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. 漢字クラスの状況 2. 漢字教材について進捗状況 (1)講師から送られてきたテキスト内容を確認 (2)語彙表について 3. テキスト構成について確認	1. 漢字クラスの状況について担当者より説明 2. 漢字教材について進捗状況 講師から送られてきたテキスト内容を確認し、現在の教材作成の進捗状況について説明した。語彙表について確認。 テキスト内にも語彙表を入れることを検討。 3. テキスト構成について確認
12	平成27年2月8日(日) 13:00～16:00	3時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、大角千恵、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	1. テキスト内容について 2. 加筆縮切について	各単元担当者ごとに次のことについて検討した。 (1) 1単元(1漢字)の文字数の確認。 (2) 各単元で足りない練習問題、および例文(読み練習)などを加え体裁を整える作業を行う。 (3) 各単元のフォントについてチェック。
13	平成27年2月21日(日) 13:30～17:30	4時間	東広島市 市民文化センター	安宅恭子、岩尾もとこ、大角千恵、坂本はるえ、武重真由美、奥村玲子、吉田奈保、間瀬尹久	構成及び内容について最終検討	書く単元担当者ごとに内容について検討した。 特に語彙表にどの言葉を入れるかなど、最終チェックを行った。 語彙表翻訳は、英語中国語に加え、インドネシア語、ベトナム語、スペイン語、ポルトガル語にすることを確認した。

#### (6) 使い方

当事業団が開催している漢字クラス(日本語教室が指導し、ボランティアがサポートする形態)において使用する。このクラスは、当事業団が開催している入門レベルの日本語Ⅰ、日本語Ⅱ(それぞれ30時間)を終えた学習者が対象である。学習者は主に非漢字圏出身。しかし、漢字圏の学習者も排除するものではない。

#### (7) 具体的な活用例

本教材は知っていると日常生活が便利になるものを扱っている。①漢字が使われている場面を設定し、漢字の使われ方を導入する。また本教材にはイラストが多く入っているので、そのイラストを使っての導入も可能である。  
②主に漢字が持つ意味及び読み方についての指導が主であるが、テキスト中には単元で大きく扱っている漢字を書く欄を作っているため、その漢字については書くことができるよう指導する。その際、筆順についても指導する。  
③時間に余裕があれば、練習問題も行う。単なる漢字の読み方だけでなく、日ごろ街中で使われている実物に近いものを使用しての練習もできるようになっている。  
④やさしい日本語、英語、中国語、ベトナム語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語の対訳付語彙表も策したので、クラスの学習者のレベルに差があっても、それを頼りに、また、ボランティアのサポートを受けながら、同じ教室で学習できる。  
⑤漢字圏の学習者であっても生活漢字の学習のため、通常の初級レベルでは学習しない漢字も学習できるようになっている。また、漢字の読み方を確認する際に発音の間違いをチェックできるように配慮した。

#### (8) 成果物の添付

「わたしが しりたい せいかつ漢字」および語彙表

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的

東広島市中心部においてはすでに当該事業団が東広島市の公的資金を用いて、外国人対象の日本語教室を開催しているが、北部、南部の中心地より遠い地域においては、外国人市民が居住しているにもかかわらず日本語教室がなく、日本語学習をたくてもできない外国人市民が存在する。それら市民に対して多文化共生社会推進の目的に沿い、地域の事業所等と連携し、地域住民との交流を図りつつ行う日本語学習の場を提供する。

また、この日本語教室は多文化共生社会推進に資するものとなるよう、ボランティア講習会を開き、参加ボランティアの意識の統一を図る。教材は、現在当事業団が作成した教材を用いているが、非漢字圏の学習者が、漢字に馴染めるよう、学習者自身が必要とする漢字を教授するための教材を作成する。またこの教材は漢字圏の学習者にとっても必要な漢字知識が与えられるように工夫するものとする。

### (2) 目標の達成状況・事業の成果

①日本語教育:学習者には生活が豊かになるように日常生活で知っていたらよいと思う題材を取り入れ、日本語を使うと同時に地域の生活情報を取り入れた活動を行った。さまざまなテーマを扱うことでトピックごとに意見交換をするなどして、参加者同士の交流が図られ、日本語を話すという意欲も高まった。学習者への聞き取り調査では、以前より日本語が話せるようになったと感じている人が多く、日本語教室は楽しかったとの反応も多かった。日本語学習という点から所期の目的はある程度達成できたのではないかと考える。課題は次の通り。

i 北部教室:そもそも学習者が散在している地域であるため、中心地の教室よりは近くなったとはいえ、交通が不便であることは否めず、特に北部地域では参加者が少なかったのが残念である。また、外国人市民との交流をしたいという住民も少なく、地域の住民と外国人市民との交流の場という設定もできなかった。

ii 南部教室:地元の漁業組合の協力が得られ、広報についてはある程度効果があったと考える。冬までは6、7名の参加があり、またボランティアも毎回参加し、地域住民と外国人市民との交流はある程度図れたと考える。ただし、寒い時期に差し掛かったところから学習者が減少したのが残念であった。

②人材養成:全12回行ったが、前回出席した人は1名であり、多文化共生推進の一環としての日本語教室という理念についてはどの程度伝わったか疑わしい。しかし各回のアンケート結果を見ると、参加者の満足度は高く、アンケートのコメントから各回の講習会内容についてはある程度伝わったと思われる。

③教材作成:本漢字教材は、生活に必要な漢字が学べるよう配慮し、当事業団の教室(60時間)で学習した語彙をできるだけ使ったものになっている。いろいろな練習ができるよう配慮し、教室で試験的に使用し、アンケートをとって見たところ、読める漢字が増えた全員が応えている。したがって、ある程度の成果はあったと思われる。

### (3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

- ①日本語教育における取り入れ方について、教室活動の話題についてはカリキュラム案を参考にしつつ、参加者の生活や仕事、出身地などの背景に合わせて、アレンジして使用した。毎回の話題を何にするかを定めるうえで、カリキュラム案にある生活上の行為の事例は大変参考になった。また、学習者に対し、生活上の行為の事例を使って、日本語学習の状況について調査を行った。
- ②漢字教材作成において、当初「私が読みたい」という学習者の希望を中心に教材を作成する予定であったが、学習者が集めてきた漢字に偏りがあった。そこでどのような漢字を取り上げるかについて、決定する際に生活上の行為の事例大分類に挙げてあったカテゴリーをあてはめ、そのカテゴリーをもとに、単元の漢字を決定した。

### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ①東広島市企画課：講習会の広報や、教室立ち上げ(日本語教育)の際の教室探しなど支援があった。また、ボランティア講習会(人材養成)には毎回担当者もしくは関係者の参加があった。外国人市民への日本語教育は東広島市の多文化共生推進プランの中核をなすものであり、今後も企画課とは連携していくことを確認している。
- ②広島大学教師：主に日本語教育専門の教師が、日本語ボランティアの広報、養成講座の広報に協力してくれた。主に日本語教育関係の教師は地域の活動がどのようなものであるか関心を持っており、学生には地域日本語教室に参加するよう呼びかけていることから、毎年日本語ボランティアに学生が参加している。このようなことから今後も連携体制を保っていくことができると考えている。
- ③漁業組合、技能実習生受け入れ組合：教室開催においては相談をし、場所の決定や教室開催の広報など協力があつた。ただ、各事業所へ日本語教室に参加するよう呼びかけをしてくれるものの、それ以上踏み込んだ要請にはならず、特に後半の学習者の減少については、対処することができなかった。結局各事業所への働きかけが必要であると考える。

### (5) 改善点、今後の課題について

- ①東広島市は市役所などがある中心部および広島大学周辺地域を除いては、外国人が散在しており、交通の不便なところにも外国人市民が居住している。日本語教室をその散在地域に2か所開催したが、特に山間部においては開催場所を決定するのが難しく、開催したものの結局交通が不便で自転車を通える範囲の市民が、参加しただけであった。また、そのような地域では日本語ボランティアを募ることが難しかった。市民同士の交流をすることで、外国人市民には日本語を話す力を養成しつつ、受け入れ住民との人間関係を築いていく活動を市内全域にいきわたらせることは非常に難しいと言わざるを得ない。まず地域の活動などに外国人市民が気楽に参加できるよう、受け入れ住民に対する多文化共生の考え方を浸透させる活動も必要である。  
外国人市民には日本語学習の機会を平等に提供したいと思うが、そのためにあちこちで行う教室と並行して、交通の不便な所でも日本語学習ができるよう、インターネットを活用した学習の方法なども考慮する必要があるかもしれない。
- ②人材の養成に関しては、支援者の高齢化の問題である。学習者の年齢は20代から30代が多いので、若い世代のボランティアの養成が急務である。広島大学の学生などの参加があるが、30代のボランティアは本当に少ない。なるべくハードルを低くして、外国人市民との交流は楽しいというメッセージを送るような取組、たとえば今年度東広島市が行ったブラジルフェアなどを利用し日本語教室の存在を知らせるなど、工夫が必要である。また、今年度は外国人市民の養成講座への参加があつた。日本語ボランティアは日本人でなければならないという考え方を捨て、今後も日本語能力の高い外国人市民にも日本語教室のボランティアとなるよう養成講座への参加を呼びかけたいと考える。
- ③今年度は養成講座を月1、2回ずつ12回のシリーズで行ったが、前回出席した人は145名中1名で極めて少ない。これを何とか2/3程度つまり8回程度は参加するよう、呼びかけたい。ボランティアを募るためのハードルは下げておく必要があるが、一方、学習者と真剣に向き合い、互いに有益な時間を持つために、外国人市民と日本語を使ったコミュニケーションをするための技術を持ち、支援者としての役割を意識できるボランティアを養成するためには、やはり東広島市における地域日本語教育の理念や、スキルを伝えていきたいと考える。そのためには魅力的な講習会を開催する必要がある。今年度後半に行った実践型の講習会は評判が良かったので、今後もそのような形の講習会を行い、参加者に連続しての参加を呼び掛けていきたい。
- ④教材については、現在既に使用している60時間程度の教材とともに、今後は今回作成した漢字教材を活用していきたい。来年度はこの漢字教材を使用し、学習者の状況にそぐわない点を改善してより良いものにしたいと考えている。また、来年度は、60時間学習し終えた人を対象とした教材も作成したいと考えている。

### (6) その他参考資料

- ① 運営委員会議事録
- ② 日本語教室(日本語わいわい安芸津、にほんごわいわい福富)風景
- ③ 日本語能力調査について
- ④ 日本語ボランティア講習会チラシ
- ⑤ 日本語ボランティア講習会写真
- ⑥ 日本語ボランティア講習会アンケート結果
- ⑦ 日本語ボランティア講習会まとめおよび今後に向けて

にほんごわいわい安芸津

教室風景



にほんごわいわい福富

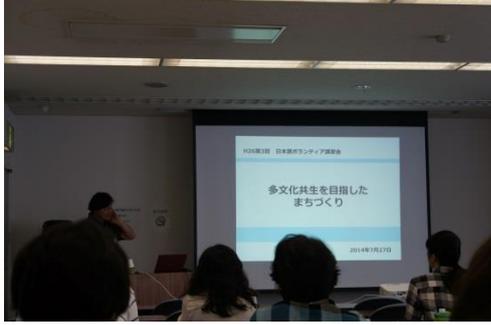
教室風景



秋の遠足(わいわい教室合同で)



ボランティア講習会写真①

<p>第1回 5月11日 「外国人と共に まちづくり」 講師：北脇保之</p>		
<p>第2回 6月29日 「多文化共生を進める ために私たちに できること」 講師：土井佳彦</p>		
<p>第3回 7月27日 「多文化共生を 目指したまちづ くりをする」 講師：明木一悦</p>		
<p>第4回 8月24日 「多文化共生を 目指した日本語 教室をデザイン する」 講師：伊藤美智代</p>		
<p>第5・6回 9月21日 「日本語ってど んな言葉」 「ボランティア のための日本語 文法」 講師：岩田一成</p>		

ボランティア講習会写真②

<p>第7回 10月25日 「日本語の音声」 講師：石澤徹</p>		
<p>第8回 11月6日 「コミュニケーションを重視した活動①-聞く」 講師：吉本由美</p>		
<p>第9回 11月20日 「コミュニケーションを重視した活動②-話す」 講師：吉本由美</p>		
<p>第10回 11月27日 「コミュニケーションを重視した活動③-実践、振り返り」 講師：吉本由美</p>		
<p>第11回 12月11日 「日本語教室活動のヒント 入門初級の学習者と話す」 講師：間瀬尹久</p>		
<p>第12回 12月18日 「日本語教室活動のヒント 中級以上の学習者と話す」 講師：間瀬尹久</p>		